

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
国語	現代の国語	定(昼)	前期(2)	必修
受講の条件		使用教科書・教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・全学科前期で履修します。 		<ul style="list-style-type: none"> ・新編 現代の国語(大修館書店) ・プリント等 		
科目の目標と概要				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができようとする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 		<p>【前期】</p> <p>コミュニケーションは技術だ (鴻上尚史) ことばの使い分け 正しく書こう 文を整え、文をつなぐ 人間はゴリラとチンパンジーのどちらに近いか (山極寿一)</p> <p>絵や写真を説明しよう 料理レシピを書こう 聞き取りのレッスン ミニインタビューをしよう 水の東西 (山崎正和) 対話のレッスン テーマを決めて話し合おう 意見文の基礎を学ぼう 反対意見を想定した意見文を書こう 情報の力関係 (佐藤雅彦) プレゼンテーションをしよう 何のために働くのか (姜尚中) ほか</p>		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を中心にプリント、資料等を用いて授業を進めます。 				
実習材料費など		留意事項など		
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
国語	現代の国語	定（夜）	通年（2）	必履修
受講の条件		使用教科書・教材		
・全学科通年で履修します。		・新編 現代の国語（大修館書店） ・プリント等		
科目の目標と概要				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。				
科目のねらい	おもな学習内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 	<p>【前期】</p> <p>コミュニケーションは技術だ（鴻上尚史） ことばの使い分け 正しく書こう 文を整え、文をつなぐ 人間はゴリラとチンパンジーのどちらに近いか（山極寿一）</p> <p>絵や写真を説明しよう 料理レシピを書こう 聞き取りのレッスン ミニインタビューをしよう 水の東西（山崎正和） ほか</p> <p>【後期】</p> <p>対話のレッスン テーマを決めて話し合おう 意見文の基礎を学ぼう 反対意見を想定した意見文を書こう 情報の力関係（佐藤雅彦） プレゼンテーションをしよう 何のために働くのか（姜尚中） ほか</p>			
受講者へのメッセージ				
・教科書を中心にプリント、資料等を用いて授業を進めます。				
実習材料費など	留意事項など			
・特になし。	・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。			

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
国語	言語文化	定(昼)	通年(2)	必履修
受講の条件		使用教科書・教材		
・全学科後期で履修します。		・新編 言語文化(大修館書店) ・プリント等		
科目の目標と概要				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。				
科目のねらい	おもな学習内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 	<p>【後期】 (現代文編) 言葉の森を育てよう (ドリアン助川) とんかつ (三浦哲郎) 羅生門 (芥川龍之介) 春のうた 夏のうた 秋のうた 冬のうた ほか</p> <p>(古文編) 古文への招待 児のそら寝 徒然草(奥山に猫またといふもの など) 枕草子(春はあけぼの、うつくしきもの など) 平家物語(木曾の最期 など) 土佐日記(門出、旅の終わり など) ほか</p> <p>(漢文編) 訓読のきまり 守株 論語(学問のすすめ など) 人面桃花 ほか</p>			
受講者へのメッセージ				
・教科書を中心にプリント、資料等を用いて授業を進めます。				
実習材料費など	留意事項など			
・特になし。	・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。			

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
国語	言語文化	定(夜)	通年(2)	必履修
受講の条件		使用教科書・教材		
・全学科通年で履修します。		・新編 言語文化(大修館書店) ・プリント等		
科目の目標と概要				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。				
科目のねらい	おもな学習内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 	<p>【前期】 (現代文編) 言葉の森を育てよう (ドリアン助川) とんかつ (三浦哲郎) 羅生門 (芥川龍之介) 春のうた 夏のうた 秋のうた 冬のうた ほか</p> <p>(古文編) 古文への招待 児のそら寝 ほか</p> <p>【後期】 (古文編) 徒然草(奥山に猫またといふもの など) 枕草子(春はあけぼの、うつくしきもの など) 平家物語(木曾の最期 など) 土佐日記(門出、旅の終わり など) ほか</p> <p>(漢文編) 訓読のきまり 守株 論語(学問のすすめ など) 人面桃花 ほか</p>			
受講者へのメッセージ				
・教科書を中心にプリント、資料等を用いて授業を進めます。				
実習材料費など	留意事項など			
・特になし。	・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。			

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
地理歴史	歴史総合	定(昼)	前期(2)/後期(2)	必履修
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・歴史総合(実教出版) ・プリント 他 		
科目の目標と概要				
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【前期】【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめる技能を身に付ける。 ・歴史の変化に関わる事象について考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 		<p>【前期】【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の扉 ・近代化と私たち <ul style="list-style-type: none"> ・近代化への胎動 ・欧米の市民革命と「西洋の衝撃」 ・欧米諸国と日本の国民国家形成 ・帝国主義の時代 ・国際秩序の変化や大衆化と私たち <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦と大衆社会 ・経済危機と第二次世界大戦 ・グローバル化と私たち <ul style="list-style-type: none"> ・冷戦と脱植民地化 ・多極化する世界 ・グローバル化と現代社会 		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を中心にプリント、資料等を用いて学習を進めます。 ・近現代の歴史の変化に関わる事象に対し、自分の意見を書いたり述べていたりして表現してください。 				
実習材料費など		留意事項など		
・なし		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期 (単位数)	必選別
地理歴史	世界史A	定(昼)	前期(2)/後期(2)	選択必履修
		定(夜)	通年(2)	
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校改訂版世界史A (第一学習社) ・プリントなど 		
科目の目標と概要				
<p>近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p>				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【前・後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユーラシアの諸文明の特質に触れ、16世紀以降の世界商業の進展及び資本主義の確立を中心に、世界が一体化に向かう過程を理解する。 ・地球規模で一体化した構造をもつ現代世界の特質と展開過程を理解し、人類の課題について歴史的観点から考察する。 		<p>【前・後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界史へのいざない ・世界の一体化と日本 <ul style="list-style-type: none"> ・ユーラシアの諸文明 ・結びつく世界と近世の日本 ・ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 ・アジア諸国の変貌と近代の日本 ・地球社会と日本 <ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義の時代 ・急変する人類社会 ・世界戦争と平和 ・三つの世界と日本の動向 ・地球社会への歩みと課題 ・持続可能な社会への展望 		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> ・人物名や年号を覚えることだけが歴史ではありません。今起こっている問題の原因を過去から見つめていくのが歴史です。現代社会に対しても幅広い興味・関心をもって取り組んでください。 				
実習材料費など		留意事項など		
<ul style="list-style-type: none"> ・なし 		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
地理歴史	世界史A	通（昼）	前期(2)／後期(2)	選択必履修
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		・高等学校改訂版世界史A（第一学習社） ・プリントなど		
科目の目標と概要				
近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養います。				
科目のねらい		おもな学習内容		
【1～6回】 ・人類の歩みを知る中で、歴史への関心を高めて歴史的な見方や考え方を身につける。 ・19世紀以降の世界を学ぶことにより、近代・現代の世界がどのような過程を経て成立してきたかを学ぶ。 ・第2次世界大戦後の世界について国際情勢と現代の諸問題を関連付けながら学習する。		【1～6回】 ①ユーラシアの諸文明 東アジア世界、南アジア世界、イスラーム世界、ヨーロッパ世界 ②結びつく世界と近世の日本 ユーラシアの交流圏、アジア諸帝国の政治と社会 大航海時代、ルネサンスと宗教改革、ヨーロッパ主権国家体制の成立 ③欧米諸国の工業化と国民形成 産業革命、アメリカ独立革命とフランス革命、イギリスの繁栄、ヨーロッパ諸国の統一 ④帝国主義の時代 帝国主義と世界の変容、急変する人類社会、第一次世界大戦、ロシア革命、ヴェルサイユ体制 ⑤世界戦争と平和 世界恐慌、ファシズムの台頭、日本の軍国主義と中国、第二次世界大戦 ⑥戦後世界のあゆみと課題 冷戦構造の世界、アジア諸国の独立、第三世界の台頭 変容する冷戦 冷戦の終結 持続可能な社会への展望		
受講者へのメッセージ				
・歴史といえば、人物名や年号などを覚えるだけで苦手意識をもつ人もいます。今、起こっている問題の原因を過去から見つめていくのが歴史です。現代社会に対して幅広い興味・関心を持って取り組んでください。				
実習材料費など		留意事項など		
・なし		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
地理歴史	世界史B	定(昼)	通年(4)	選択必履修
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・新選世界史B(東京書籍) ・プリント 		
科目の目標と概要				
世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人類が各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことを理解する。 ・ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に諸地域世界の交流が一段と活発化したことを理解する。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により世界の構造化が進み社会の変容が促されたことを理解する。 ・世界が地球規模で一体化し二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解し、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察する。 		<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文明と地域世界の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・地球と人類のはじまり ・西アジア世界・地中海世界の形成 ・南アジア世界・東南アジア世界の形成 ・東アジア世界・内陸アジア世界の形成 ・諸地域世界の交流と再編 <ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム世界の形成と拡大 ・ヨーロッパ世界の形成と変動 ・内陸アジア世界と諸地域世界 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸地域世界の結合と変容 <ul style="list-style-type: none"> ・アジア諸地域世界の繁栄と成熟 ・ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ・産業社会と国民国家の形成 ・世界市場の形成とアジア諸国 ・地球世界の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・世界の分割 ・二つの世界大戦 ・戦後世界の形成と変容 ・21世紀の課題 		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> ・人物名や年号を覚えることだけが歴史ではありません。今起こっている問題の原因を過去から見つめていくのが歴史です。現代社会に対しても幅広い興味・関心をもって取り組んでください。 				
実習材料費など		留意事項など		
・なし		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
地理歴史	日本史A	定（昼）	前期（2） / 後期（2）	選択必履修
		定（夜）	通年（2）	
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		・高校日本史A 新訂版（実教出版） ・プリント 他		
科目の目標と概要				
我が国の近現代史の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
科目のねらい		おもな学習内容		
【前期】 【後期】 ・日本の歴史についての基礎的な知識の定着を図る。歴史的な見方や考え方を身につける。 ・近代、現代を国際情勢と関連付けて、学習する。 ・近現代の諸課題について歴史を踏まえて、多面的・多角的に考察する。		【前期】 【後期】 ・近代への転換 異国船の接近と幕藩体制の動揺 ～明治維新と新政府の成立 ・大日本帝国の形成 文明開化と復古 ～大日本帝国憲法の制定 ・大日本帝国の展開 条約改正と立憲政友会の結成 ～社会問題の発生 ・両大戦間の世界と日本 大正デモクラシー ～普通選挙法と治安維持法 ・15年戦争と日本・アジア 満州事変と「満州国」 ～日本の敗戦 ・戦後改革と高度経済成長 戦後アジアと日本・アメリカ ～戦後の文化 ・現代の世界と日本 低成長への転換 ～21世紀の世界と日本		
受講者へのメッセージ				
・教科書を中心にプリント、資料等を用いて学習を進めます。 ・近現代の日本史Aの事象に対し自分の意見を書いたり述べたりして表現して下さい。				
実習材料費など		留意事項など		
・なし		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
地理歴史	日本史A	通(昼)	前期(2)/後期(2)	選択必履修
受講の条件		使用教科書・教材		
特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・高校日本史A 新訂板(実教出版) ・プリント 		
科目の目標と概要				
我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【1～6回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開国前後から第二次世界大戦終結までの政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、相互の関連を重視して考察する。 ・第二次世界大戦後の政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、現在の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察する。 		<p>【1～6回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①近代への転換 ②大日本帝国の形成 ③大日本帝国の展開 ④両大戦間の世界と日本 ⑤15年戦争と日本・アジア ⑥戦後改革と高度経済成長 現代の世界と日本 		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> ・人物名や年号を覚えることだけが歴史ではありません。今起こっている問題の原因を過去から見つめていくのが歴史です。現代社会に対しても幅広い興味・関心をもって取り組んでください。 				
実習材料費など		留意事項など		
<ul style="list-style-type: none"> ・なし 		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
地理歴史	日本史B	定（昼）	通年（4）	選択必修
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・新日本史B 改訂版（山川出版社） ・プリント 		
科目の目標と概要				
我が国の歴史の展開を、諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の歴史についての基礎的な知識の定着を図り、歴史的な見方や考え方を身につけます。 ・原始から近世までを学びます。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際社会と関連づけて、我が国の歴史を学習します。 ・近代及び現代を学びます。 		<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本文化のあけぼの 古代国家の形成 古代国家の展開 宮廷貴族社会の成立 武家政権の成立 中世社会の展開 幕藩体制の確立 幕藩体制の展開 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 幕藩体制の動揺 近代国家の成立 立憲国家の成立と日清・日露戦争 大正デモクラシーと政党政治 第二次世界大戦と日本 占領と国際復帰 55年体制と高度経済成長 冷戦の終了と55年体制の崩壊 		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を中心にプリントや視覚資料等を用いて学習を進めます。 				
実習材料費など		留意事項など		
<ul style="list-style-type: none"> ・なし 		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更及び修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期 (単位数)	必選別
地理歴史	日本史B	通(夜)	通年(4)	選択必修
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		・新日本史B 改訂版(山川出版社) ・プリント		
科目の目標と概要				
我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めることにより、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養います。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【1～6回】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史についての基礎的な知識の定着を図り、歴史的な見方や考え方を身につけます。 原始、古代、中世、近世を学びます。 <p>【7～12回】</p> <ul style="list-style-type: none"> 近代、現代を学びます。 国際社会と関連づけて、我が国の歴史を学習します。 		<p>【1～6回】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①日本文化のあけぼの、古代国家の形成と展開 ②古代国家の展開、宮廷貴族社会の成立 ③武家政権の成立 ④中世社会の展開 ⑤幕藩体制の確立 ⑥幕藩体制の展開 <p>【7～12回】</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑦幕藩体制の動揺、近代国家の成立 ⑧立憲国家の成立と日清・日露戦争 ⑨大正デモクラシーと政党政治 ⑩第二次世界大戦と日本 ⑪占領と国際復帰 ⑫55年体制と高度経済成長、冷戦の終了と55年体制の崩壊 		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> 人物名や年号を覚えるだけではありません。今、現代で起こっている諸問題を、歴史を学ぶことによって、考えていきましょう。 学習方法は、教科書を中心にプリント、資料等を用いて学習を進めます。 				
実習材料費など		留意事項など		
・なし		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科目名	授業形態	開講期 (単位数)	必選別
地理歴史	地理 A	定 (昼)	前期 (2) 後期 (2)	選択必履修
		定 (夜)	通年 (2)	
受講の条件		使用教科書・教材		
特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等学校現代地理 A 新訂版 (清水書院) ・ 基本地図帳改定版 (二宮書店) 		
科目の目標と概要				
現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民として自覚と資質を養う。				
科目のねらい		おもな学習内容		
【前期】 【後期】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界諸地域の生活・文化及び地球的課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を深めるとともに、地理的技能及び地理的な見方や考え方を身につける。 ・ 生活圏の諸課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、地理的技能及び地理的な見方や考え方を身につける。 		【前期】 【後期】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代世界の特色と諸課題の地理的考察 地球儀や地図からとらえる現代世界 世界の諸地域の暮らしと文化 地球的課題の地理的考察 など。 ・ 生活圏の諸課題と地理的考察 日常生活と結びついた地図 自然環境と防災 身近な地域の地理的課題と地域調査 など。 		
受講者へのメッセージ				
・ 現代世界の成り立ちを地理的側面から学んでいきます。また、世界各地域の特徴や国際問題についても幅広く考えていきたいと思えます。				
実習材料費など		留意事項など		
なし		<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
地理歴史	地理A	通（昼）	前期(2) 後期(2)	選択必履修
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等学校現代地理A新訂版（清水書院） ・ 基本地図帳改訂版（二宮書店） 		
科目の目標と概要				
現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民として自覚と資質を養う。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【1～6回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の諸地域（生活・文化）及び地球的課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を深めるとともに、地理的技能及び地理的な見方や考え方を身につける。 ・ 生活圏における諸課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、地理的技能及び地理的な見方や考え方を身につける。 		<p>【1～6回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代世界の特色と諸課題の地理的考察 <ul style="list-style-type: none"> ①地球儀や地図からとらえる現代世界 ②世界の諸地域の暮らしと文化 ③地球的課題の地理的考察 ・ 生活圏の諸課題と地理的考察 <ul style="list-style-type: none"> ④日常生活と結びついた地図 ⑤自然環境と防災 ⑥身近な地域の地理的課題と地域調査 <p style="text-align: right;">など</p> <p style="text-align: right;">など</p>		
受講者へのメッセージ				
・ 地球環境問題や南北問題など時事問題について幅広く考えていきたいと思ひます。				
実習材料費など		留意事項など		
・ なし		<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更や修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
地理歴史	地理B	定(昼)	通年(4)	選択必履修
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・新詳地理B(帝国書院) ・新詳高等地図(帝国書院) 		
科目の目標と概要				
現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代世界の自然・社会環境について調べ、諸課題を考察する。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代世界が多様な地域から構成されていること、それらの地域が類似性、規則性で幾つかの区分ができることを理解し、現代世界を系統的にとらえる。 		<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化を知り、今の生活との関連性を考える。 ・環境、エネルギー、食料、人口、居住、都市問題民族、領土問題などをいくつかの地域の実例をふまえて追求し、その特殊性や類似性を捉え、国際化の進む現代の地球規模の課題として捉える。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家間の結びつきの現状と課題を考察する。 ・近隣諸国の生活、文化を追求する。 ・市町村規模、国家規模、州・大陸規模の地域を地誌的にとらえる。 		
受講者へのメッセージ				
・教科書を中心にプリント、資料等を用いて学習を進めます。				
実習材料費など		留意事項など		
・なし		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
地理歴史	地理B	通（夜）	通年（4）	選択必履修
受講の条件		使用教科書・教材		
特になし		新詳新地理B（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）		
科目の目標と概要				
自然環境、産業、生活文化に関する地域性について世界的視野から考察し、現代世界を系統地理的にとらえる視点や方法を身に付けさせ、現代世界の諸課題について、地理的な見方や考え方を養います。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【1～6回】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代世界の自然環境について学習し、理解を深める 世界の諸産業や経済的なつながりについて学習し、今日的課題について調べ、考察する <p>【7～12回】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界の諸地域について学習し理解を深める。 世界の諸地域の抱える今日的課題について調べ、考察する。 世界の諸地域と日本のつながりについて調べ、これからの課題について考察する。 		<p>【1～6回】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①さまざまな地図と地理的技能 ②世界の地形 ③世界の気候 ④世界の農林水産業と食料問題 ⑤世界のエネルギー・鉱産資源/資源・エネルギー問題 ⑥世界の工業/第3次産業/交通・通信/貿易と経済圏 人口、村落・都市 <p>【7～12回】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域区分/東アジア諸地域地誌 ②東南アジア/南アジア地誌 ③西アジア/中央アジア/アフリカ地誌 ④ヨーロッパ地誌 ⑤アングロアメリカ地誌 ⑥ラテンアメリカ/オセアニア地誌 		
受講者へのメッセージ				
・教科書を中心にプリント、資料等を用いて学習を進めます。				
実習材料費など		留意事項など		
なし		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
公民	現代社会	定(昼)	前期(2)	選択必履修
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会(東京書籍) ・プリント、新聞記事など 		
科目の目標と概要				
<p>人間の尊厳と科学的な精神に基づき、広い視野に立って現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p>				
科目のねらい		おもな学習内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸課題について多角的に考え追究する。 ・自分たちが住む社会がどのような特徴を持つものであるか理解するとともに、現代社会において、青年期をどのように生きるべきか考える。 ・私たちの生活と憲法・政治との関わりについて理解する。 ・現代社会における経済の特徴を、私たちの生活との関わりの中で理解する。 ・国際社会が抱える様々な問題を理解することで、国際社会における日本の役割や日本人としての生き方について考える。 ・未来社会にむけて、社会の持続可能な発展に結びつく答えを探究する。 		<ul style="list-style-type: none"> ①わたしたちの生きる社会 <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題、エネルギー問題、生命倫理など ②現代の社会と人間 <ul style="list-style-type: none"> ・青年期と自己形成の課題 ・日本国憲法と民主主義 ・現代社会と法 ・現代の経済と国民福祉 ・国際社会と人類の課題 ③ともに生きる社会をめざして <ul style="list-style-type: none"> ・労働環境問題 ・交通事情問題 ・環境・ゴミ処理問題 ・発展途上国の開発 ・家族、地域社会問題 ・原子力発電の今後 		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸問題に対して、自分の問題としての意識をもって取り組んでほしい。 ・積極的に自分の考えを記述したり、意見を発表したりしてほしい。 				
実習材料費など		留意事項など		
・なし		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
公民	現代社会	通(昼)	前期(2)/後期(2)	選択必履修
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会(東京書籍) ・プリント、新聞記事など 		
科目の目標と概要				
人間の尊厳と科学的な精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸課題について多角的に考え追究する。 ・自分たちが住む社会がどのような特徴を持つものであるか理解するとともに、現代社会において、青年期をどのように生きるべきか考える。 ・現代社会における経済の特徴を、私たちの生活との関わりの中で理解する。 ・私たちの生活と日本の憲法や政治との関わりについて理解する。 ・国際社会が抱える様々な問題を理解することで、国際社会における日本の役割や日本人としての生き方について考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ①私たちの生きる社会 <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題、エネルギー問題、生命倫理など ②現代の社会と人間 <ul style="list-style-type: none"> ・青年期と自己形成の課題 ・日本国憲法と民主政治 ・現代社会と法 ・現代の経済と国民福祉 ・国際社会と人類の課題 ③ともに生きる社会をめざして <ul style="list-style-type: none"> ・労働環境問題 ・交通事情問題 ・環境・ゴミ処理問題 ・発展途上国の開発 ・家族、地域社会問題 ・原子力発電の今後 		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸問題に対して、自分の問題としての意識をもって取り組んでほしい。 ・教科書だけでなく、書物や新聞なども大いに活用して調べて欲しい。 				
実習材料費など		留意事項など		
・なし		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
公民	公共	定(夜)	通年(2単位)	必履修
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・東京法令出版 ・プリント・新聞記事など 		
科目の目標と概要				
人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・公共的な空間を作る主体として「よりよい社会」のあり方について多角的・多面的に考察し追及することができる。 ・政治などの集団の意思を決定するために、どのような過程やシステムがあるのかを知り自らがどのように関わればよいかを考える。 ・基礎的な経済を知り、経済活動を持続的に行う仕組みについて考え、表現することができる。 ・国際政治・経済の仕組みを知り、国際社会での問題について考える。 ・持続可能な社会を目指して、現代社会の諸問題に資料等を活用して考え、論述することができる。 		<ol style="list-style-type: none"> 1 公共の扉をひらくために <ul style="list-style-type: none"> ・公共的な空間をつくる・ ・公共的空間における人間としての在り方・生き方 ・民主政治・日本国憲法など 2 よりよい社会の形成に参加する <ul style="list-style-type: none"> ・日本の政治機構と政治参加 ・経済の仕組み ・変化する日本経済 ・豊かな社会の実現 ・国際政治のしくみと動向 ・国際経済のしくみと動向 ・国際社会の現状と課題 3 持続可能な社会をつくるために <ul style="list-style-type: none"> ・民主主義、日本の格差問題、科学技術の発展 外国人との共生など 		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸問題に対して、自分の問題としての意識をもって取り組んでほしい。 ・積極的に自分の考えを記述したり、意見を発表したりしてほしい。 				
実習材料費など		留意事項など		
・なし		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や行事、担当者の出張等により進度などに変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
公民	倫理	定(昼)	後期(2)	選択必履修
		定(夜)	通年(2)	
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		・倫理(東京書籍) ・プリントなど		
科目の目標と概要				
人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の位置づけや特徴を確認し、青年期の課題について考える。 ・哲学、宗教、芸術などの営みが人生において持つ意義を、先人の歩んだ道のりをたどりつつ学び、人間としての自覚を深める。 ・日本の長い歴史の中で受け継がれてきた独自のものの考え方や感じ方の特徴を見つめなおし、国際社会に生きる自覚を形成する。 ・現代に生きるわたしたちのかかえる諸問題(生命倫理、地域社会、国際問題など)の根源を探り、未来を切り開く指針を明らかにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の課題と自己形成 青年期の意義 青年期の課題と生き方 ・人間としての自覚 人間とは何か ギリシャの思想 キリスト教 イスラーム 仏教 中国の思想 芸術と人間 ・国際社会に生きる日本人の自覚 日本人の精神的風土 外来思想と日本の伝統思想 西洋思想と日本人の近代化 国際社会に生きる日本人の自覚 ・現代を生きる人間の倫理 現代とはどのような時代か 人間の尊厳 民主社会の倫理 新たな人間像の模索 自然や科学気寿と人間とのかかわり 民主社会の成熟のために ・現代の課題を考える 生命、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、環境、国際平和と人類の福祉 		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> ・倫理は人生を考える上で非常に大きな知見を与えてくれます。教科書に書かれている様々な事柄を自分の問題としてとらえ、積極的な授業の参加と発言を期待します。 ・実生活の中で自分のこれまでの生き方や周囲の人々との接し方を振り返るとともに、これから社会にでて実生活に生かす気持ちを養ってください。 				
実習材料費など		留意事項など		
・なし		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
公民	政治・経済	定(昼)	前期(2)	選択必履修
		定(夜)	通年(2)	
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		・最新政治・経済 新訂版(実教出版) ・プリントなど		
科目の目標と概要				
広い視野に立ち、現代における政治・経済、国際関係などについて客観的に理解し、それらに関する諸課題について自らに考察することで、公正な判断力を養い、これからの社会に必要な能力と態度を育てます。				
科目のねらい		おもな学習内容		
・民主政治のしくみと現代の民主政治が抱える諸問題について学ぶ。		現代の政治 現代国家と民主政治 日本国憲法と基本的人権 日本の政治制度と政治参加 現代の国際政治 日本の平和主義と国際平和		
・経済のしくみと現代の経済が抱える諸問題について学ぶ。		現代の経済 経済社会の変容 現代経済のしくみ 現代の日本経済と福祉の向上 現代の国際経済		
・現代社会の諸課題について新聞や統計資料などをもとに、主体的に考察し、発表する。		現代社会の諸課題		
受講者へのメッセージ				
・政治分野も経済分野も、自分の問題としての意識をもって取り組んでほしい。 ・選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたことを踏まえ、有権者として未来の日本を担う考え方を身につけてほしい。 ・日頃より新聞やニュースを視聴し、時事問題への関心を深めてほしい。 ・積極的に自分の考えを記述したり、意見を発表したりしてほしい。				
実習材料費など		留意事項など		
・なし		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
数学	数学 I	定(昼)	通年(4)	必履修
		定(夜)	通年(4)	
受講の条件		使用教科書・教材		
<ul style="list-style-type: none"> 総合ビジネス科以外は、1年次の受講が望ましい。総合ビジネス科は2年次の受講が望ましい。 		<ul style="list-style-type: none"> 旧課程：高校数学 I 新訂版（実教出版） 新課程：高校数学 I（実教出版） 		
科目の目標と概要				
<p>数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。</p>				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また，式を多面的にみたり処理したりするとともに，一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。 統計の基本的な考えを理解するとともに，それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数とそのグラフについて理解し，2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに，それらを事象の考察に活用できるようにする。 三角比の意味やその基本的な性質について理解し，三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに，それらを事象の考察に活用できるようにする。 		<p>【前期】</p> <p>1章 数と式 4章 集合と論証 5章 データの分析</p> <p>【後期】</p> <p>2章 2次関数 3章 三角比</p>		
年間を通して適切な時期に課題学習を実施する。				
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容に基づいて学習を進めます。 				
実習材料費など		留意事項など		
<ul style="list-style-type: none"> 特になし 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合がある。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
理科	科学と人間生活	定(昼)	前期(2)・後期(2)	選択必履修
		定(夜)	通年(2)	
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・科学と人間生活(啓林館) ・プリントほか 		
科目の目標と概要				
<p>科学が我々の生活にどのように関わっているかを、身近な事象を取り上げ、様々な視点から考察し、理解を深める。特に、光をテーマとし、物理・化学・生物・地学の各分野から総合的に学習する。</p>				
科目のねらい		おもな学習内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトの遺伝子や視覚と光の関係など、体内で起こるさまざまな生命現象を学習します。 ・我々の生活に関わる様々な物質がどんな材料から出来ているのか、身近な例を取り上げて学習します。 ・光の様々な性質と正体、その利用について、実験などを通して学習し、理解します。 ・身近な天体である太陽や月がどのように人間生活と関わっているか学習します。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ ヒトの生命現象 <ul style="list-style-type: none"> ・タンパク質と遺伝子 ・ヒトの視覚と光 ・血糖濃度の調整 ○ 衣料と食品 <ul style="list-style-type: none"> ・食品の化学 ・衣料の化学 ○ 光の性質とその利用 <ul style="list-style-type: none"> ・光の進み方 ・光の波としての性質 ・電磁波とその利用 ○ 太陽と地球 <ul style="list-style-type: none"> ・身近な天体 ～太陽と月～ ・潮の満ち引き ・太陽放射と地球 		
受講者へのメッセージ				
<p>実験・観察などを通して、身近な現象や物質から宇宙にいたるまでの幅広い分野について科学的に考察します。自ら興味を持って学び、考える姿勢が大切です。</p>				
実習材料費など		留意事項など		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
理科	科学と人間生活	定(昼)	前期(2)・後期(2)	選択必履修
		定(夜)	通年(2)	
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・科学と人間生活(啓林館) ・プリントほか 		
科目の目標と概要				
<p>科学が我々の生活にどのように関わっているかを、身近な事象を取り上げ、様々な視点から考察し、理解を深める。特に、光をテーマとし、物理・化学・生物・地学の各分野から総合的に学習する。</p>				
科目のねらい		おもな学習内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・生物と光の関わりについて、実験などを通し、幅広い観点から学習します。 ・我々の生活に係わる様々な物質がどんな材料から出来ているのか、身近な例を取り上げて学習します。 ・光の様々な性質と正体、その利用について、実験などを通して学習し、理解します。 ・我々が暮らす太陽系について学び、天体の運行と人間生活の関わりについて、観察などを通して学習します。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 生物と光 <ul style="list-style-type: none"> ・植物の生育と光 ・人の視覚と光 ・動物の行動と光 ○ 食品と衣料 <ul style="list-style-type: none"> ・食品の化学 ・衣料の化学 ○ 光の性質とその利用 <ul style="list-style-type: none"> ・光とは何か ・光の性質 ・電磁波とその利用 ○ 身近な天体と太陽系における地球 <ul style="list-style-type: none"> ・太陽系の中の地球 ・太陽と人間生活 ・天体の運行と人間生活 		
受講者へのメッセージ				
<p>実験・観察などを通して、身近な現象や物質から宇宙にいたるまでの幅広い分野について科学的に考察します。自ら興味を持って学び、考える姿勢が大切です。</p>				
実習材料費など		留意事項など		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
理科	化学基礎	定(昼)	前期(2)・後期(2)	選択必履修
		定(夜)	通年(2)	
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・新編 化学基礎(東京書籍) ・プリントほか 		
科目の目標と概要				
<p>実験・観察などを通して、実際に見て触れることにより、物質の性質について理解を深めます。原子などミクロの世界から高分子などのマクロの世界まで、身近な生活や環境を取り上げ、科学的な視点から考察します。さらに、学習した内容をレポートにまとめ、発表することにより、自らの考えを具体的にまとめます。</p>				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>物質の基本的な構造や性質を実験・観察を通して学習し理解を深めます。</p> <p>また、私たちの生活や環境などを科学的な観点から考察し、学習します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○化学と人間生活 <ul style="list-style-type: none"> ・物質の成分と構成元素 ○物質の構成 <ul style="list-style-type: none"> ・原子の構造と元素の周期表 ・化学結合 ○物質と変化 <ul style="list-style-type: none"> ・物質と化学反応式 ・酸と塩基 ・酸化還元反応 		
受講者へのメッセージ				
<p>身近な事物・事象を中心に取り扱い、化学の基礎的・基本的内容を広く学習します。また、実験・観察を取り入れ、実験器具の安全な使用方法や科学的な考え方について学びます。自ら考えて学習に取り組む姿勢が必要です。</p>				
実習材料費など		留意事項など		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
理科	物理基礎	定(昼)	前期(2)後期(2)	選択必履修
		定(夜)	通年(2)	
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・改訂版 新編 物理基礎 (数研出版) ・プリント ほか 		
科目の目標と概要				
<p>日常に起こる物体の運動や様々なエネルギーについて観察、実験などを通して学習し、物理現象とエネルギーについて理解を深め、科学的な見方や考え方を身に付ける。</p>				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>日常生活で起こる事物・事象について、観察・実験を通して学習する。</p>		<p>1章 物体の運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の表し方 ・力 ・運動の法則 <p>2章 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動とエネルギー ・熱とエネルギー 熱と温度、熱の利用 <p>3章 波</p> <ul style="list-style-type: none"> ・波の性質 ・音と振動 <p>4章 電気</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電流の流れ方 ・電気の利用 		
受講者へのメッセージ				
<p>実験・観察などを通して、身近物理な現象やエネルギーについて科学的に考察します。自ら興味を持って学び、考える姿勢が大切です。</p>				
実習材料費など		留意事項など		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
理科	化学基礎	定(昼)	前期(2)・後期(2)	選択必履修
		定(夜)	通年(2)	
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> 改訂 新編化学基礎(東京書籍) プリントほか 		
科目の目標と概要				
<p>実験・観察などを通して、実際に見て触れることにより、物質の性質について理解を深めます。原子などミクロの世界から高分子などのマクロの世界まで、身近な生活や環境を取り上げ、科学的な視点から考察します。さらに、学習した内容をレポートにまとめ、発表することにより、自らの考えを具体的にまとめます。</p>				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>物質の基本的な構造や性質を実験・観察を通して学習し理解を深めます。</p> <p>また、私たちの生活や環境などを科学的な観点から考察し、学習します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○化学と人間生活 ○物質の構成 <ul style="list-style-type: none"> 物質の成分と構成元素 原子の構造と元素の周期表 化学結合 ○物質と変化 <ul style="list-style-type: none"> 物質と化学反応式 酸と塩基 酸化還元反応 		
受講者へのメッセージ				
<p>身近な事物・事象を中心に取り扱い、化学の基礎的・基本的内容を広く学習します。また、実験・観察を取り入れ、実験器具の安全な使用方法や科学的な考え方について学びます。自ら考えて学習に取り組む姿勢が必要です。</p>				
実習材料費など		留意事項など		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
理科	生物基礎	定(昼)	前期(2)、後期(2)	選択必履修
		定(夜)	通年(2)	
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		・改訂 新編生物基礎(東京書籍)		
科目の目標と概要				
日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>1編 生物の特徴 生物に共通にみられる特徴とその生命活動を維持するための反応について学習する。</p> <p>2編 遺伝子とそのはたらき 遺伝子の本体であるDNAの構造とその働きについて学習する。</p> <p>3編 生物の体内環境の維持 体内のさまざまな器官の働きで体内の状態をコントロールしていくしくみについて学習する。</p> <p>4編 生物の多様性と生態系 生物と多様な環境についての関係と環境の保全について学習する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・生物の共通性 生物の特徴、細胞にみられる共通性と多様性 ・生命活動とエネルギー 生命活動を支える代謝、生体内のエネルギー変換 ・生物と遺伝子、遺伝子の均等分配 DNAの構造、細胞分裂とDNA ・タンパク質の設計図 DNAとタンパク質合成、生命現象を支えている遺伝子 ・体内環境の維持 体内環境の特徴、体内環境を調節する器官 ・体内環境のしくみ 自律神経、ホルモンによる調節、免疫 ・植生の多様性 生態系における植物の役割、植生と遷移 ・気候とバイオーム 地球上の植生分布、さまざまなバイオーム ・生態系とその保全 エネルギーと物質の循環、生態系のバランスと保全 		
受講者へのメッセージ				
授業で生物学の基本的な概念の形成を図り、実験・観察を通して生物学的に探究する方法を学び、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成します。				
実習材料費など		留意事項など		
・特になし		・生徒の実態や行事の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
理科	地学基礎	定(昼)	前期(2)後期(2)	選択必履修
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・地学基礎 新訂版(実教出版) ・プリント ほか 		
科目の目標と概要				
地学の基本的な概念や原理・法則について観察、実験などを通して学習し、地学的に探究する能力と態度や、科学的な見方や考え方を養う。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>(1) 宇宙の誕生と地球の形成について観察、実験などを通して探究し、宇宙と、惑星としての地球の特徴を学ぶ。</p> <p>(2) 変動する地球について、観察実験などを通して探究し、地球がプレートの運動や太陽の放射エネルギーによって変動してきたことを学ぶ。また、地球の環境と人間生活とのかわりについて考察する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○宇宙の構成と運動 <ul style="list-style-type: none"> ・地球の形と大きさ ・地球の内部構造 ・プレートの運動 ・火山と地震 ○地球の変遷 <ul style="list-style-type: none"> ・地層と化石 ・古生物の変遷と地球環境 ○大気と海洋 <ul style="list-style-type: none"> ・大気の構造と運動 ・大気の大循環 ・海洋の構造と海水の運動 ・日本の四季と気象と気候 ○太陽系と宇宙 <ul style="list-style-type: none"> ・太陽系の中の地球 ・太陽とその進化 ・宇宙のすがた ○地球の環境 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の自然環境 ・地球環境の科学 		
受講者へのメッセージ				
実験・観察などを通して、地学の基本的な概念や原理・法則について科学的に考察します。自ら興味を持って学び、考える姿勢が大切です。				
実習材料費など		留意事項など		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
保健体育	体育	定(昼)	通年(2)	必
		定(夜)	通年(2)後期(1)	
受講の条件		使用教科書・教材		
年間4単位(卒業見込み年度を除く)		(1年次)現代高等保健体育(大修館)		
科目の目標と概要				
健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てる。健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【前期】【後期】</p> <p>いろいろな手軽な運動やリズムカルな運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことによって、精神的なストレスの解消に役立つようにするなど体と心の安定をはかる。</p> <p>球技において、ボールなどを用い、集団的技能、個人的技能を發揮し、集団対集団、あるいは個人対個人で攻撃と防御を展開し得点を取り合って勝敗を競う。そして、それぞれの運動種目独自のルールによって展開されるゲームを技能の段階に応じて作戦を立てて勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わう。</p>		<p>【前期】【後期】</p> <p>○体づくり運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐし運動 ・体力を高める運動 <p>○球技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール ・ビーチボールバレー ・バドミントン ・卓球 ・フレッシュテニス ・フットサル <p>○ダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォークダンス ・現代的なリズムのダンス <p>○新体力テスト</p> <p>○体育理論</p>		
受講者へのメッセージ				
体力は日常生活を送る上で重要な役割を果たしています。体力を高めるためには、運動することが必要です。しかし、ただ運動すれば良いというわけではありません。どうすれば体力が高まるか学んでいきましょう。				
実習材料費など		留意事項など		
学校指定の体育服を着用して行います。ピアス、ネックレス等のアクセサリ類は全てはずして授業に参加することになります。		生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合がある。		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
保健体育	体育	定(昼)	通年(2)	必
		定(夜)	通年(2)後期(1)	
受講の条件		使用教科書・教材		
年間4単位(卒業見込み年度を除く)		(2~4年次) 現代高等保健体育改訂版(大修館)		
科目の目標と概要				
健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てる。健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【前期】【後期】</p> <p>いろいろな手軽な運動やリズムカルな運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことによって、精神的なストレスの解消に役立つようにするなど体と心の安定をはかる。</p> <p>球技において、ボールなどを用い、集団的技能、個人的技能を發揮し、集団対集団、あるいは個人対個人で攻撃と防御を展開し得点を取り合って勝敗を競う。そして、それぞれの運動種目独自のルールによって展開されるゲームを技能の段階に応じて作戦を立てて勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わう。</p>		<p>【前期】【後期】</p> <p>○体づくり運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐし運動 ・体力を高める運動 <p>○球技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール ・ビーチボールバレー ・バドミントン ・卓球 ・フレッシュテニス ・フットサル <p>○ダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォークダンス ・現代的なリズムのダンス <p>○新体力テスト</p> <p>○体育理論</p>		
受講者へのメッセージ				
体力は日常生活を送る上で重要な役割を果たしています。体力を高めるためには、運動することが必要です。しかし、ただ運動すれば良いというわけではありません。どうすれば体力が高まるか学んでいきましょう。				
実習材料費など		留意事項など		
学校指定の体育服を着用して行います。ピアス、ネックレス等のアクセサリ類は全てはずして授業に参加することになります。		生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合がある。		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
保健体育	保健	通(昼)	前期・後期(各2)	必
		通(夜)	後期(2)	
受講の条件		使用教科書・教材		
特になし		現代高等保健体育(大修館)		
科目の目標と概要				
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。				
科目のねらい	おもな学習内容			
<p>【1～6回】</p> <p>個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。</p>	<p>【1～6回】</p> <p>1. 現代社会と健康 健康の考え方と成り立ち方、私たちの健康のすがた、生活習慣病の予防と回復、がんの原因と予防、がんの治療と回復、運動と健康、食事と健康、休養・睡眠と健康、喫煙と健康、飲酒と健康、薬物乱用と健康、精神疾患の特徴、精神疾患の予防、精神疾患からの回復、現代の感染症、感染症の予防、感染症・エイズとその予防、健康に関する意志決定・行動選択、健康に関する環境づくり</p> <p>2. 安全な社会生活 交通事故の現状と要因、安全な社会の形成、交通における安全、応急手当の意義とその基本、日常的な応急手当、心肺蘇生法</p> <p>3. 生涯を通じる健康 ライフステージと健康、思春期と健康、性意識と性行動の選択、妊娠・出産と健康、避妊法と人工妊娠中絶、結婚生活と健康、中高年期と健康、働くことと健康、労働災害と健康健康的な職業生活</p> <p>4. 健康を支える環境づくり 大気汚染と健康、水質汚濁・土壌汚染と健康、環境と健康に関わる対策、ごみの処理と上下水道の整備、食品の安全性、食品衛生にかかわる活動、保健サービスとその活用、医療サービスとその活用、医薬品の制度とその活用、さまざまな保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加</p>			
受講者へのメッセージ				
面接指導の際に、プリントのポイントなどを説明します。				
実習材料費など	留意事項など			
特になし	生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合がある。			

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
保健体育	保健①②	定(昼)	後期(各1)	必
受講の条件		使用教科書・教材		
特になし		現代高等保健体育 改訂版(大修館)		
科目の目標と概要				
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。				
科目のねらい	おもな学習内容			
<p>【後期】</p> <p>個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。</p>	<p>【後期】</p> <p>1. 現代社会と健康 私たちの健康のすがた、健康のとらえ方、健康と意思決定・行動選択、健康に関する環境づくり、生活習慣病とその予防、食事と健康、運動と健康、休養・睡眠と健康、喫煙と健康、飲酒と健康、薬物乱用と健康、現代の感染症、感染症の予防、性感染症・エイズとその予防、欲求と適応機制、心身の相関とストレス、ストレスへの対処、心の健康と自己実現、交通事故の現状と要因、交通社会における運転者の素質と責任、安全な交通社会づくり、応急手当の意義とその基本、心配蘇生法、日常的な応急手当</p> <p>2. 生涯を通じる健康 思春期と健康、性意識と性行動の選択、結婚生活と健康、妊娠・出産と健康、家族計画と人工妊娠中絶 加齢と健康、高齢者のための社会的取り組み、保健制度とその活用、医薬品と健康、さまざまな保健活動や対策</p> <p>3. 社会生活と健康 大気汚染と健康、水質汚濁・土壌汚染と健康、健康被害の防止と環境対策、環境衛生活動のしくみと働き、食品衛生活動のしくみと働き、食品と環境の保健と私たち、働くことと健康、労働災害と健康、健康的な職業生活</p>			
受講者へのメッセージ				
身近なことや時事問題と関連付けて、プリントやDVDなどを活用して、分かりやすく進めていこうと考えています。				
実習材料費など	留意事項など			
特になし	生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合がある。			

教科名	科目名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
芸術	音楽Ⅰ	定（昼）	通年（2）	選択必修
		定（夜）	通年（2）	
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		・高校生の音楽Ⅰ（教育芸術社） ・プリント		
科目の目標と概要				
音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。				
科目のねらい		おもな学習内容		
表現の歌唱、器楽、創作及び鑑賞についての幅広い活動を展開し、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。		【前期／後期】 歌唱 思いを込めて歌おう 歌曲を歌おう 音楽の遊び 器楽 ギターを弾こう 合奏を楽しもう 箏を弾こう 音楽の遊び 創作 音楽をつくろう 編曲に挑戦しよう 鑑賞 西洋音楽の鑑賞 西洋音楽史 日本の伝統音楽 世界の諸民族の音楽 楽典		
受講者へのメッセージ				
・自分の知っている曲、興味のあるジャンル以外にも、いろいろな音楽があります。また、鑑賞するだけでなく、自分で表現することを通して、新たな喜びを感じることができるかもしれません。積極的に取り組みましょう。				
実習材料費など		留意事項など		
・特になし		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
芸術	美術Ⅰ	定(昼)	通年(2)	選択必修
		定(夜)	通年(2)	
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		高校生の美術Ⅰ(日本文教出版) 参考作品		
科目の目標と概要				
・美術の鑑賞と創造活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てる。 発展的な美術の創造活動を通して、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【前期】</p> <p>幅広いジャンルの美術の鑑賞と創造活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てる。</p> <p>【後期】</p> <p>発展的な美術の創造活動を通して、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。</p>		<p>【前期】</p> <p>オリエンテーション 絵画 ・デッサン デザイン ・暮らしの中の「使う」デザイン ・粘土で作るお弁当のデザイン ランプシェード作り 絵画 ・切り絵制作 ・制作作品鑑賞</p> <p>【後期】</p> <p>版画 ・ドライポイント制作 デザイン ・キャラクターのデザイン 絵画 ・人物クロッキー ・水墨画</p>		
受講者へのメッセージ				
<p>作品の形や色など、構想を練りながら自分のイメージに合った作品を制作することを大切にしてほしいです。</p> <p>日頃から美術やもののデザイン等に関心を持って、作品制作に挑むと、今までに見てきたデザインを参考にして、新しい発想の作品も作ることもできます。</p>				
実習材料費など		留意事項など		
・画材代など		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
芸術	書道Ⅰ	定(昼)	通年(2)	選択必履修
		定(夜)	通年(2)	
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		<ul style="list-style-type: none"> ・書Ⅰ(光村図書) ・自主教材 		
科目の目標と概要				
<p>中学校で学習した「書写」を基本にして、芸術としての「書道」を学ぶ。「漢字の書」 「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」「実用書」における書道の幅広い活動を通して、表現と鑑賞の基礎的能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。</p>				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【前期】 書の美の原理、理法を習得し基礎を身につける。</p> <p>【後期】 前期で学習した内容をさらに深め、いろいろな書体の学習を通して表現力の向上を図る。</p>		<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用具、用材、姿勢、執筆法、用筆法など ・楷書の学習 ・行書の学習 ・創作作品の制作 ・鑑賞による合評会 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作作品の制作 ・行書の学習 ・草書、隸書、篆書の学習 ・仮名の学習 ・漢字仮名交じり書の学習 ・ペン字の学習 ・鑑賞による合評会 		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> ・実技中心の授業となります。 ・筆やペンによる表現の楽しさを味わいましょう。 				
実習材料費など		留意事項など		
<ul style="list-style-type: none"> ・墨・筆・紙などの教材費約3000円が必要です。 		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
外国語	英語コミュニケーションⅠ	定 (昼・夜)	通年(4)	必履修
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		・VISTA English Communication I (三省堂) ・ワークブック(三省堂)		
科目の目標と概要				
・英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。				
科目のねらい		おもな学習内容		
【前期】 ・中学校で学習したことを確認しながら、「聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと」を含む活動を関連させて学習する。 【後期】 ・日常的な話題について、聞いたり読んだりして得た情報を使って、自分の考えを英語で話したり書いたりする能力を伸ばす。		【前期】 ・ローマ字、アルファベットの復習 ・英語の発音 ・辞書の使い方 ・英語の文章の理解 ・英文法の理解 be動詞、一般動詞、疑問文、現在進行形、助動詞、動詞の過去形、SVO、SVOO、SVOC、不定詞、動名詞 ・自己紹介の表現 【後期】 ・英語の文章の理解 ・英文法の理解 現在完了形、受け身、形式主語It、SVOC、関係代名詞、比較表現、仮定法過去 ・英文Eメールの書き方・レストラン、カフェでの表現 ・英語でのメモの取り方 ・インターネット上のメッセージに英語で応答 ・英語の読みもの		
受講者へのメッセージ				
・外国語指導助手(ALT)とのチーム・ティーチングがあります。				
実習材料費など		留意事項など		
・英和・和英辞典を持参してください。		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科目名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
家庭	家庭基礎	定 （昼・夜）	通年（2）	必履修 （普・情・国）
受講の条件		使用教科書・教材		
・1年次での受講が望ましい。		・家庭基礎 明日の生活を築く（開隆堂）		
科目の目標と概要				
人の一生と家族・家庭や福祉、衣食住、消費生活について学習し、生活の中の課題を主体的に解決し生活の充実向上を目指します。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭、子どもについて考えます。 ・健康で安全な食生活を営む基本的な知識と技術を身につけます。 ・生活の中から課題を見つけ解決に向け実践しまとめます。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康で快適な衣生活を営む基本的な知識と技術を身につけます。 ・高齢者の生活と福祉について考えます。 ・消費者として適切な意志決定に基づいた行動と生涯の生活設計について考えます。 ・安全で環境を考えた住生活を営む基本的な知識と技術を身につけます。 		<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人生を見通し、共に生きる 自分らしい生き方と家族 子どもとかかわる 持続可能な家庭生活 食べる 栄養と食品 食品の衛生と安全 食事計画と調理 ホームプロジェクト <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 着る 人と衣服のかかわり 衣服の素材・管理 高齢者の生活と福祉 高齢者とかかわる 社会とかかわる 消費者市民として生きる 消費行動を考える 経済的に自立する 住まう 人と住まいのかかわり 健康で安全な住まい環境 生活設計 		
受講者へのメッセージ				
・実践的・体験的な活動を取り入れ、実生活に役立つ学習を進めます。				
実習材料費など		留意事項など		
・実習の材料費（2,000円）		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
家庭	家庭総合	定(昼)	通年(4)	必履修 (生)
受講の条件		使用教科書・教材		
・生活文化科1年次が受講する。		・家庭総合 -明日の生活を築く-(開隆堂)		
科目の目標と概要				
人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住について学習し、生活の中の課題を主体的に解決し生活の充実向上を目指します。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族と社会との関わりについて学び、自分らしい生き方を考える。 ・食物調理技術検定4級に取り組むことができる。 ・食文化に関心を持ち、健康で安全な食生活の自立に必要な知識と技術を身につけることができる。 ・衣文化に関心を持ち、被服管理や被服製作など衣生活の自立に必要な知識と技術を身につけることができる。 ・被服製作技術検定4級に取り組むことができる。 ・生活の中から課題を見つけ実践し、まとめることができる。 ・高齢者の生活と福祉などについて学び、共生することの重要性や家族及び地域や社会の果たす役割について考えることができる。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達と子どもの遊びや生活、子育て支援について学び理解することができる。保育について考えることができる。 ・消費者としての自立を目指し適切な意志決定に基づいた行動と生涯の生活設計について考えることができる。 ・住文化に関心を持ち、住空間の計画や安全な住環境など自立に必要な知識と技術について知ることができる。 		<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人とかかわって生きる <ul style="list-style-type: none"> ・自分を見つめる ・家族 ・家庭と社会 ・高齢者の生活と福祉 ・共生社会における地域や家族 ○食べる <ul style="list-style-type: none"> ・人間と食べ物 ・食品と栄養 ・食品の衛生と安全・食事を調える ○着る <ul style="list-style-type: none"> ・人間と被服 ・被服の選択 ・被服の着用 ・被服の管理 ・製作 ○高齢者と関わる <ul style="list-style-type: none"> ・高齢期の特徴と高齢者の尊厳と生活、福祉 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもと関わる <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達と保育・福祉 ○消費者市民として生きる <ul style="list-style-type: none"> ・消費生活の変化とその課題 ・家計のマネジメント ・消費行動と意思決定 ・消費者の権利と責任 ・持続可能な消費生活 ○住まう <ul style="list-style-type: none"> ・人間と住まい ・さまざまな住まいと暮らし方 ・快適な住まい ・安全な住まい ○生涯の生活設計 <ul style="list-style-type: none"> ・生活資源を活用した生活設計 ・リスクのマネジメント・持続可能な社会に向けて 		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習・体験学習等を取り入れ実生活に役立てる学習を進めます。食物調理技術検定・被服製作技術検定に挑戦します。 ・高校生の赤ちゃんふれあい体験を実施予定。 				
実習材料費など		留意事項など		
検定料・実習費等 年間約4,000円 (半期受講約2,000円)		・生徒の実態や行事の都合等により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
情報	社会と情報	定(昼)	前期(2)、後期(2)	必履修 (普・国)
		定(夜)	通年(2)	
受講の条件		使用教科書・教材		
2年次での履修が望ましい。		新・見てわかる社会と情報(日文出版)		
科目の目標と概要				
<p>情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力と情報社会に積極的に参画する態度を身につける。</p>				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【前期】【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 情報を活用しよう 2 情報モラルを身につけよう 3 コンピュータを使ってみよう 4 文書を作成してみよう 5 問題解決をしてみよう 6 データを分析してみよう 7 情報をわかりやすく伝えよう 8 情報化が社会に及ぼす影響と課題 9 情報セキュリティの確保 10 情報社会における法と個人の責任 11 情報通信ネットワークとコミュニケーション 12 情報のデジタル化 13 情報通信ネットワークのしくみ 14 望ましい情報社会を築く 		<p>【前期】【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 情報社会に関心を持ち、情報活用能力を高める態度を養う ■ 情報を発信するときに必要な送り手としての責任を理解する ■ 情報機器の特徴とはたらきについて理解する ■ 文書処理ソフトウェアを使った文書作成の方法を習得する ■ 問題の本質を知り、問題を解決する手順と方法を理解する ■ 表計算ソフトウェアを活用した情報の分析の方法を習得する ■ プレゼンソフトウェアを活用した情報発信の方法を習得する ■ 情報化が社会に及ぼす影響と課題を理解する。 ■ 情報セキュリティを高めるためのさまざまな方法を理解する ■ 情報や権利を保護することの必要性和個人の責任を理解する ■ 情報の特徴とメディアの意味、コミュニケーション手段の発達について理解する。 ■ 情報のデジタル化の基礎的な知識を理解する。 ■ 情報通信ネットワークの基本的なしくみを理解する。 ■ 情報システムの種類や特徴を知り、社会生活での役割と影響を理解する。 <p>自己紹介、世界三大〇〇、旅行計画などの課題実習を中心に学習します。</p>		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> ・昼間制の生徒は、半期に集中して行います。 ・夜間制の生徒は、一年を通して行います。 				
実習材料費など		留意事項など		
・特になし		・生徒の実態や学校行事の都合等により、進度を変更修正する場合があります。		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
商業	ビジネス基礎	定(昼)	前期(2)	必履修 (総ビ)
受講の条件		使用教科書・教材		
・1年次の履修が望ましい。		・ビジネス基礎(実教出版) ・ビジネス基礎 準拠問題集(実教出版)		
科目の目標と概要				
ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産・流通・消費という経済を支える仕組みと、経済主体としての家計・企業・政府の関係を理解させるとともに企業が行う経済諸活動の総称であるビジネスの意義や役割について、身近な事例を取り上げて理解させる。 ・経済活動における流通の意義や役割及び経済的特質について、生産から消費に至る役割分担の変化や小売業の業種や業態の変化と関わらせて理解させる。 ・流通活動における売買取引や代金決済の仕組み及び売買取引の方法の基礎的・基本的な内容について理解させる。 		<p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 商業の学習とビジネス <ul style="list-style-type: none"> ・いざ、ビジネスの世界へ ・私たちの社会とビジネス 2 ビジネスとコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・ビジネスマナー 3 経済と流通の基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・経済の仕組みとビジネス ・経済活動と流通 4 さまざまなビジネス <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの種類 等 5 企業活動の基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスと企業 等 6 ビジネスと売買取引 <ul style="list-style-type: none"> ・売買取引の手順 ・代金決済 7 ビジネス計算 <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス計算の基礎 ・ビジネス計算の応用 8 身近な地域のビジネス <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな地域の魅力と課題 ・地域ビジネスの動向 		
受講者へのメッセージ				
・授業は教科書を中心に、ビジネスや経済に関する内容を学び、ビジネスの諸活動の理解を深めます。				
実習材料費など		留意事項など		
・問題集代金		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
商業	課題研究 講座名(キャリアガイダンス)	定(昼)	前期(2)	選択必履修 (情)
受講の条件		使用教科書・教材		
<ul style="list-style-type: none"> 卒業年次での受講とする。 年間4単位までの受講とする。 		<ul style="list-style-type: none"> 特になし 		
科目の目標と概要				
<p>進路先に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。面接ノートの作成や面接指導を通して、進路先の受験に対する意識を高める。</p>				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現実感のある将来を見据えた進路目標を立てる。 進路先受験に必要な面接や作文、履歴書作成の指導を実施する。 		<p>【前期】</p> <p>(1) 進路研究</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生活を振り返り、自分の長所を見いだす。 自分の将来の見通しを持ちながら、卒業後の進路目標を考える。 進路指導用のビデオを見る。 <p>(2) 面接試験対策指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 面接ノートの記入 模擬面接練習 <p>(3) 履歴書指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 履歴書の記入について <p>(4) 作文試験対策指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職用作文の書き方指導 進学用小論文の書き方指導 <p>(5) 筆記試験(一般常識)対策</p>		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> 面接試験の模擬練習や履歴書の記入等を通して、進路意識を高めながら、入社試験や入学試験に備える。 				
実習材料費など		留意事項など		
<ul style="list-style-type: none"> 特になし 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
商業	課題研究 講座名(調査・研究)	定(昼)	後期(2)	選択必履修 (情)
受講の条件		使用教科書・教材		
<ul style="list-style-type: none"> 卒業年次での受講とする。 年間4単位までの受講とする。 		<ul style="list-style-type: none"> 特になし 		
科目の目標と概要				
<p>商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、プレゼンテーションソフトに関する知識と技術の深化を図るとともに、調査、研究を通して問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。学期末に発表会を実施し、各自やグループの研究内容を発表する。</p>				
科目のねらい	おもな学習内容			
<p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人、もしくはグループで課題を設定し、調査・研究を進めていきます。 	<p>【後期】</p> <p>課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 商業の学習分野の内容の中から各自の興味・関心、進路希望などに応じて、課題を設定します。 マーケティング分野 ビジネス経済分野 会計分野 ビジネス情報分野 <p>レポート作成及び発表</p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら学び、自ら考え、主体的に判断するなど課題の解決を図る学習をとおして得た結果をレポートとしてまとめ、発表します。 			
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> 自らの課題を解決していく中で、より専門的な知識や考え方を身に付けることができます。また、問題解決の意識を持つことで、データに基づいた観点や論理的な思考をする力がつきます。 				
実習材料費など	留意事項など			
<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 			

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
商業	簿記	定(昼)	後期(2)	必履修 (総ビ)
受講の条件		使用教科書・教材		
・1年次の履修が望ましい。		・新簿記(実教出版) ・反復式簿記問題集全商3級(実教出版)		
科目の目標と概要				
企業における取引の記録・計算・整理に関する知識と技術を習得し、簿記の基本的な仕組みについて理解するとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を身につける。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 簿記を学ぶことの必要性を認識させる。 企業において日常発生する取引を仕訳し、勘定記入を経て決算に至る簿記の基本的な仕組みについて理解させる。 個人企業のさまざまな取引の記帳に関する基礎的な知識と技術を習得させる。 基本的な決算整理を含む決算手続を扱い、決算の意味や目的について理解させる。 帳簿の種類や帳簿全体の仕組みについて理解させるとともに、伝票や特殊仕訳帳を用いた合理的、能率的な記帳の知識と技術を習得させる。 		<p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 簿記の基礎 <ul style="list-style-type: none"> 簿記の意味、目的、歴史 資産・負債・純資産と貸借対照表 収益・費用と損益計算書 簿記一巡の手続き 取引の記帳 <ul style="list-style-type: none"> 現金・預金 商品売買 債権・債務 固定資産 個人企業の資本と税金 販売費 決算 <ul style="list-style-type: none"> 決算整理 財務諸表 会計帳簿と帳簿組織 <ul style="list-style-type: none"> 会計帳簿 伝票 会計ソフトウェアの活用 取引の記帳(その2) <ul style="list-style-type: none"> 特殊な手形の取引、有価証券の取引、本支店会計 決算(その2) <ul style="list-style-type: none"> 決算整理(その2) 		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> 指定問題集の演習と課題プリントを中心に学習を進めます。 欠席すると学習内容が理解出来なくなります。 				
実習材料費など		留意事項など		
<ul style="list-style-type: none"> 問題集代 赤ボールペン・定規・電卓を用意して下さい。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正する場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期 (単位数)	必選別
商業	情報処理	定 (昼)	前期 (2)	必履修 (総)
受講の条件		使用教科書・教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次での履修が望ましい 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報処理新訂版 (実教出版) ・ 情報処理検定模擬試験問題集 3級 (実教出版) 		
科目の目標と概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータやネットワークを活用して、ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、適切に表現する知識と技術を習得する。全商情報処理検定 3級の合格を目指す。 ・ 個人情報や知的財産の保護に留意して、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。 				
科目のねらい		おもな学習内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全商情報処理検定試験 3級の合格を目指します。 ・ 教科情報の「社会と情報」の代替科目としているため「社会と情報」の内容についても学習します。 ・ わかりやすい報告書の作成方法について学びます。 ・ 適切な意思決定について学びます。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の意義と役割。 ・ 情報モラルや個人情報・知的財産の保護。 ・ コンピュータのハードウェア・ソフトウェア。 ・ 通信ネットワークの役割としくみ、Web情報の検索や収集、セキュリティ。 ・ 表計算ソフト (Excel) の基本操作、基本的な関数、グラフ作成、情報の整列・検索・抽出操作。 ・ ワードプロソフト (Word) の基本操作。 ・ プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の基本操作。 		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 主に、表計算ソフト (Excel) を利用し課題を作成しながら学習を進めます。 ・ 原則として全商情報処理検定 3級を受験します。 				
実習材料費など		留意事項など		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題集代金 ・ 全商情報処理検定 3級検定試験受験料 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
家庭	生活産業基礎	定(昼)	通年(2)	必履修(生)
受講の条件		使用教科書・教材		
・生活文化科1年次が受講する。		・生活産業基礎(実教出版) ・ワークシート		
科目の目標と概要				
人々の生活を支えている衣食住、保育、家庭看護や介護などにかかわる「生活産業」の意義と役割を理解し、生活産業の種類や特徴、関連する職業について学習します。				
科目のねらい		おもな学習内容		
【前期】【後期】 1 私たちの生活が衣食住、保育、家庭看護や介護などのヒューマンサービスにかかわる産業に支えられていることを理解します。 2 家庭生活を支える生活産業の種類や特徴、関連する職業について理解し、関心を高めます。 3 生活産業における各分野のスペシャリストに必要な専門的知識や技術について理解し、商品やサービスについての実践的な態度を身に付けます。 4 専門科目の学習と職業生活のかかわりを理解し、職業資格の取得や将来のスペシャリストを目指した学習プランを考えます。		【前期】 「生活産業基礎」を学ぶにあたって ・生活産業とは ・職業と産業 生活の変化と生活産業 ・産業構造の変化 ・社会の変化と価値観の多様化 ・生活産業の発展 生活の変化に応じた商品・サービスの提供 ・消費者ニーズの把握 ・商品・サービスの開発及び販売・提供 ・関連法規 生活産業と職業 ・食生活関連分野の産業と職業 ・衣生活関連分野の産業と職業 【後期】 生活産業と職業 ・住生活関連分野の産業と職業 ・ヒューマンサービス関連分野の産業と職業 職業生活と自己実現		
受講者へのメッセージ				
・「生活産業基礎」は生活文化科で学んでいく上でのベースになる科目であり、他の専門科目との関連が深い科目です。 ・生活産業現場などの見学や聞き取り調査などの具体的な事例を通して理解を深めます。 ・生活文化科で学ぶ意義を考えながら授業に臨んでください。				
実習材料費など		留意事項など		
・実習費(1,000円)		・生徒の実態や行事の都合、外部講師などの都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科目名	授業形態	開講期（単位数）	必選別
家庭	課題研究	定（昼）	通年（2）	必履修 （生）
受講の条件		使用教科書・教材		
・3年次で「生活と情報」とともに受講するのが望ましい。		・ワークシート		
科目の目標と概要				
専門教科家庭の各科目で学習した知識と技術を生かして、課題を設定し、課題の解決を目指して調査・研究を行います。年度末には、研究の成果をまとめ、発表する機会を設けます。				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活文化科「課題研究」の学ぶ意味を理解しながら課題の研究に取り組み、実践を通して生活の改善・向上を図る能力を身につけます。 研究の成果を工夫してまとめます。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究の成果をわかりやすく効果的にまとめ、発表します。 フェアウェルパーティーの計画・実施を通して、パーティー料理の献立作成からもてなしの方法までを学びます。 		<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門学科において「課題研究」を学ぶ意味 課題解決の進め方 研究課題の設定 研究の実施計画 実践活動 研究のまとめ <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究のまとめ 研究の効果的なプレゼンテーション 研究発表の実施 研究発表の評価 フェアウェルパーティーの計画 献立作成 調理方法、調理手順等の計画 調理実習（試作による練習） フェアウェルパーティーのまとめ 		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> 自分の研究課題を設定し、生活文化科で学習した事柄をもとに、課題にそって情報を収集し、研究を進めます。 生活文化科の総仕上げの科目として、課題に臨んでください。 				
実習材料費など		留意事項など		
・実習費（3,000円）		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正や学習順序の入れ替え、内容の精選を行うこともあります		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
家庭	生活産業情報	定(昼)	通年(4)	必履修 (生)
受講の条件		使用教科書・教材		
<ul style="list-style-type: none"> 生活文化科2～4年次が受講する。 		<ul style="list-style-type: none"> 生活産業情報(実教) ビジネス文書実務検定問題集3級(実教) 全商情報処理検定問題集3級(実教) 		
科目の目標と概要				
<p>コンピュータ等の情報機器や情報通信ネットワークなどの情報手段を円滑に活用できるよう、職業人として情報モラルやセキュリティ管理に留意し、情報に関する知識と技術を習得し、生活産業の各分野で情報及び情報手段を適切に活用する能力と実践的な態度を育てます。</p>				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度情報処理通信社会における産業や生活の変化と、生活産業におけるコンピュータの役割や利用状況について学習します。 コンピュータによる情報処理手順や、いくつかのアプリケーションソフトウェアの基本操作について習得します。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種アプリケーションソフトウェアを利用し、生活産業と関連する情報の処理、分析、プレゼンテーションを行います。 		<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報化の進展と生活産業 情報化の進展と社会 生活産業における情報化の進展 情報モラルとセキュリティ 情報のモラル 情報のセキュリティ管理 情報機器と情報通信ネットワーク 情報機器の仕組み 情報通信ネットワークの仕組み 生活産業における情報及び情報手段の活用(1) 情報の収集、処理、分析、発信 表計算ソフトウェアの活用 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活産業における情報及び情報手段の活用(2) 文書処理ソフトウェアの活用 プレゼンテーションソフトウェアを活用した発表 		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> 情報及び情報手段を適切に活用できる能力を身につけます。情報処理検定、ビジネス文書実務検定に挑戦します。 				
実習材料費など		留意事項など		
<ul style="list-style-type: none"> 問題集、検定受検料(5,000円) 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。 		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
英語	総合英語 I	定(夜)	通年(4)	必履修 (国)
受講の条件		使用教科書・教材		
・なし		・プリント、その他		
科目の目標と概要				
英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育て、情報や考えを的確に理解し伝える能力を一層伸ばすとともに、社会生活で活用できるようにする。				
科目のねらい	おもな学習内容			
【前期】 <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を復習する。 ・リスニング力を高める。 ・書き取る力を伸ばす。 ・発音を正しくする。 ・読解力をつける。 ・作文する力を伸ばす。 【後期】 <ul style="list-style-type: none"> ・リスニング力を高める。 ・書き取る力を伸ばす。 ・作文する力を伸ばす。 ・読解力をつける。 ・発表力をつける。 ・対話する力をつける。 	【前期】 <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の定着を図る問題演習に取り組みます。 ・さまざまな日常的な場面における英会話やまとまった内容の情報や考えを聞き取り、ポイントを押さえて理解する練習をします。 ・リスニング練習、書き取り練習、発音練習を効果的に組み合わせて行います。 ・まとまった英文を読み、英単語や英熟語・文法構造などを押さえながらあらすじをとらえて書き取り、それを作文でまとめる練習をします。 【後期】 <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな日常的な場面における英会話やまとまった内容の情報や考えを聞いてポイントを書き取り、自分の考えを付け加えて作文する練習を行います。 ・聞き取ったり読み取ったりしたことから、自分の考えなどを作文にまとめ、発表する練習を行います。 ・発表された内容などについてポイントなどを書き取り把握した上で、質疑応答や意見交換、ディスカッションをする練習を行います。 			
受講者へのメッセージ				
中学校まで習った基礎的内容を再確認しながら、より実践的なコミュニケーション能力の獲得を目指します。				
実習材料費など	留意事項など			
・テキスト・教材費など	受講者のニーズ・実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合がある。			

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
国際	中国語入門 (共学講座名 中国語入門)	定 (夜)	通年(2)	選択必履修 (国)
受講の条件		使用教科書・教材		
・中国語に興味関心を持つ者。		・中国語で伝えよう(朝日出版社)		
科目の目標と概要				
中国語の基礎を学ぶとともに、中国語に慣れ親しむことをめざす。 ・発音、基礎構文、日常会話などを学習する。 ・中国文化についても学習する。				
科目のねらい		おもな学習内容		
【前期】【後期】 ・初めての中国語に親しみ、慣れる。次第に話す能力を身につける。 ・短文構成の文章を繰り返し読み、聞き、書いて本文の暗記に傾注する。 ・CDや範読により聞く力を養いつつ、授業の中で対話練習もし、中国語の雰囲気慣れる。		【前期】 ・発音の基礎(ピンインと声調) ・あいさつ用語、自己紹介 ・家族の名称、数字の読み方 ・先生や友達との日常会話 【後期】 ・肯定と否定の表現 ・中国の風景、習慣 ・文法のまとめ(補語、介詞他) ・文章の読解と朗読		
受講者へのメッセージ				
・やさしく大きな声で読み、何度も書いて覚えます。 ・初めての人でも大丈夫です。				
実習材料費など		留意事項など		
・テキスト代金として約2,500円必要です。		・生徒の実態や行事の都合、担当者の出張等の都合により、進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
国際	ハングル入門 (共学講座名 ハングル入門)	定 (夜)	通年(2)	選択必履修 (国)
受講の条件		使用教科書・教材		
・ハングルに興味関心を持つ者。		・プリント、その他		
科目の目標と概要				
ハングルの読み書きを習得するとともに、韓国語で聞いたり話したりして、身近な話題のための基礎的な表現を習得し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。				
科目のねらい		おもな学習内容		
【前期】 ・ハングル文字を学ぶ。 ・韓国語で挨拶することができる。		【前期】 ・韓国語の基本となるハングル文字を、発音練習を中心に覚える。 ・簡単な挨拶(自己紹介など)を練習する。 ・簡単な動詞を覚える。		
【後期】 ・短い会話ができる。 ・相手に質問する。 ・簡単な文法事項を学ぶ。 ・数の数え方やカレンダーの読み方を学ぶ。		【後期】 ・前期で学んだ文字や動詞を復習する。 ・挨拶の後に続くような簡単な会話文を学ぶ。 ・簡単な文法事項を使って、旅行に役立つような会話を学ぶ。 ・数の数え方など、身の回りのものを韓国語で話す練習をする。		
受講者へのメッセージ				
・韓国の文化などについても学ぶ機会があるので、言語だけではなく、韓国の文化や習慣について興味がある生徒の受講をお勧めします。				
実習材料費など		留意事項など		
・特に必要はありませんが、テキストを購入したい場合は申し出てください。		・生徒の実態や行事の都合により、項目進度において変更修正がある場合があります。		

教科名	科目名	授業形態	開講期(単位数)	必選別
国際	ロシア語入門 (共学講座名 ロシア語入門)	定(夜)	通年(2)	選択必履修 (国)
受講の条件		使用教科書・教材		
・特になし		・プリント		
科目の目標と概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語に親しみ、簡単な会話ができるようになる。 ・ロシアの歴史や文化に対する関心を深め国際時代を生きる態度を養う。 				
科目のねらい		おもな学習内容		
<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつを学び、ロシア語で簡単なコミュニケーションができる。 ・ロシア語のアルファベットを学び、正しく発音できる。 ・ロシア語の名詞の種類を学び、適切に使用できる。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期に学んだことを踏まえて、さらに詳しいロシア語文法を学ぶことで、ある程度長い文章でも読めるようになる。 ・実践的な会話表現を学び、前期より長い会話ができる。 ・ロシアの伝統料理を、ロシア語のレシピで作り、文化について学ぶ。 		<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・アルファベット ・名詞の性 ・所有代名詞 ・複数形 ・指示代名詞 ・形容詞 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動詞の現在変化 ・動詞の過去変化 ・前置格 ・生格 ・ロシア文化 		
受講者へのメッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> ・社会人の方が多く学ばれている講座です。文法の問題演習だけでなく、ゲームをしたりDVDを見たりもします。後期にはロシア料理を作ります。楽しく勉強しましょう。 				
実習材料費など		留意事項など		
<ul style="list-style-type: none"> ・教材費2000円程度。 		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や行事、出張等の都合により進度に変更がある場合があります。 		